

「多文化共生と多文化共創について」 外国人日本語キーパーソンによる共生・共創

-
- 1.日本語学習の視点から見た
外国人の在住状況の変化と課題
 - 2.基本の考え方
 - 3.具体的取り組み
 - 4.地域の課題と外国人日本語キーパーソン
 - 5.めざす事業モデル
 - 6.増加する在住外国人と多文化共生・共創の進展
-

NPO法人 Gコミュニティ
代表理事 本堂 晴生

1. 日本語学習の視点から見た外国人の在住状況の変化と可能性

在住外国人の増加と、その中での**永住志向者の増加**

		総数	永住者 + 定住者	(単位：千人)
2013年6月	日本	2,049	803	
	群馬県	42	26	
2023年6月	日本	3,223	1,092 (34 %)	
	群馬県	70	32 (45 %)	

出典：
法務省統計

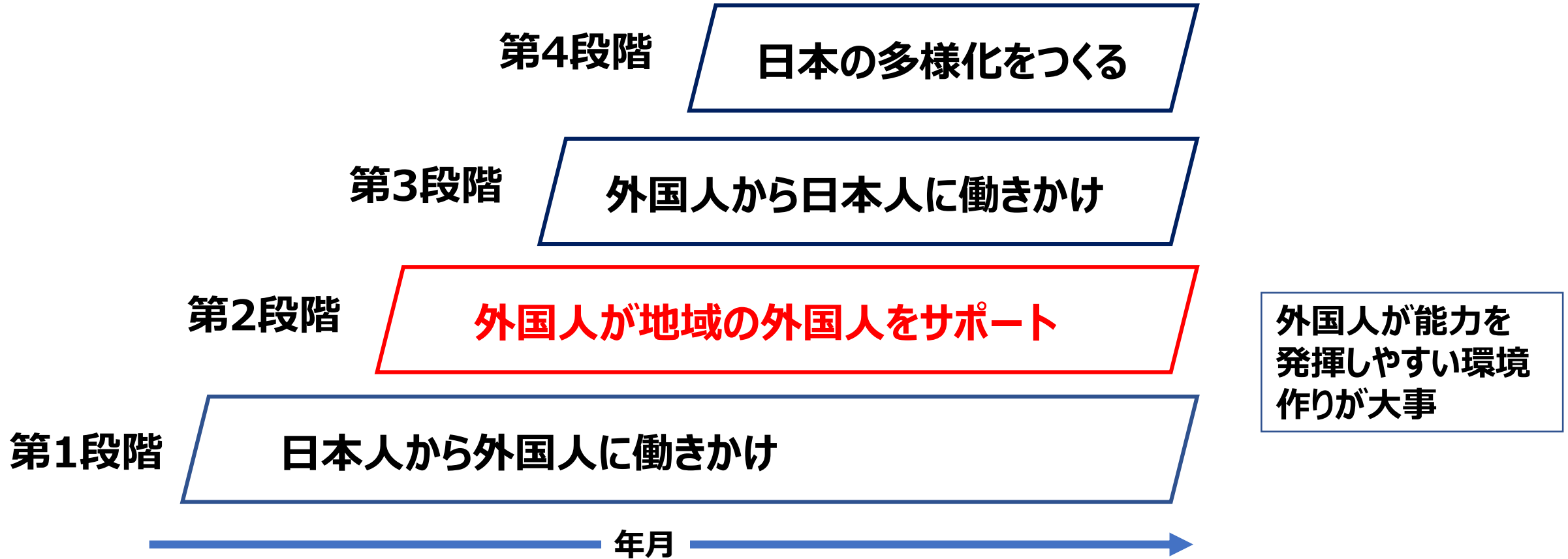
大人： 経験の蓄積・技術継承可能に
単純労働 ⇒ 能力を発揮するための日本語学習⇒ 外国人の学び直し
子ども： 高校・専門学校・大学進学増加へ
学習言語の習得 ⇒ 将来の選択肢を広げる日本語学習

能力ある人が能力を
伸ばせるように



支援のあり方の変化： 外国人にとって日本語学習は**最終目的ではなく、**
将来の選択肢を広げるための手段（道具）

2. 基本の考え方…多文化共生の日本人と外国人の関係が多様に発展



日本社会で従来受け身になりがちであった在住外国人が、積極的に自ら日本人に働きかけることができることで、より対等な関係が構築され、外国人の持つ多様性が共生を通して日本社会や地域社会の新たな活力源になるのではないのでしょうか。

多様化：人々がいろいろな違いを認め合い、新しいことをつくる

3.1 Gコミュニティの具体的な取り組み（外国人児童生徒支援の場合）

日本語を学ぶことはとても大事です。それに加えて…

外国人の子どもにとって**日本語を学ぶことは最終目的ではなく、
自分の人生の選択肢を広げるための道具**です

日本社会で一人一人の
将来の選択肢を広げられ
ることが共生につながる。

道具を使える**環境**づくり … 教育支援の広がり

自分で考え・
決められる力
の養成

進学説明会・
職業説明会

母国語による
教育相談

母国語による
心理カウンセリング

日本語・教科学
習支援
(学校内外)

機会を自分で
作る力の養成

中学校卒業程度認定試験の支援

高等学校卒業程度認定試験の支援

奨学金・教育ローンの情報支援

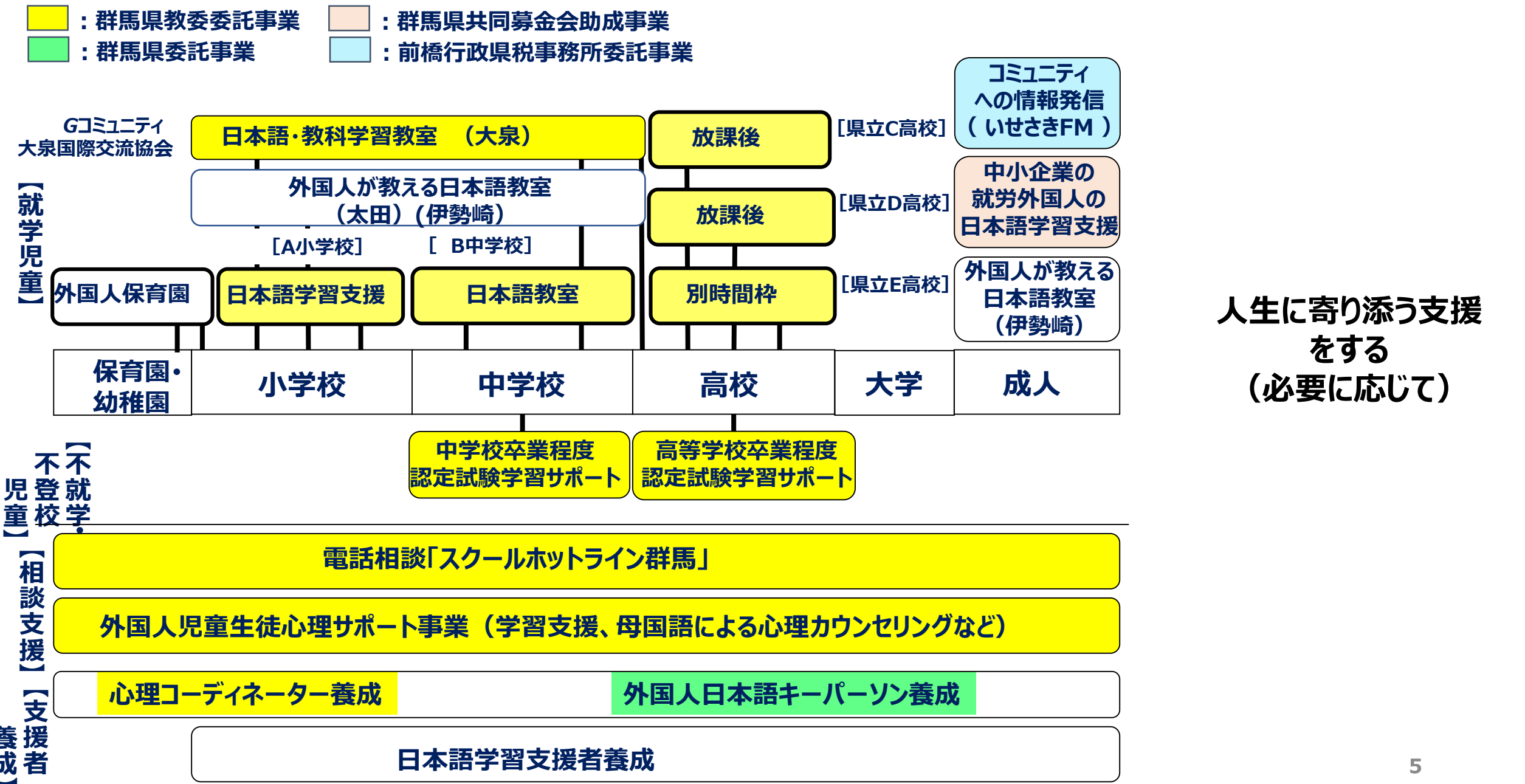
身近に相談
できる地域の
力の養成

外国人日本語キー
パーソン養成

心理コーディネーター
養成

外国人が教える
日本語教室
(兼交流センター)

3.2 Gコミュニティによる外国人児童生徒・保護者等の教育支援の取り組み



4.1 地域の課題と外国人日本語キーパーソン^{*}の役割(1)

＊ 日本語能力が高く、日本の社会制度の基礎知識を持つ。日本語を教える力がある。

課題 1

在住外国人が地域社会で共生・自律し、さらに地域活性化に貢献するためには、**日本語力と社会生活に必要な知識を身に付ける必要がある**

課題 2

日本在住の長い外国人の中には、日本語力がありボランティアなどによる**地域貢献意識のある人たちがいるが、その能力を生かせていない**

外国人日本語キーパーソンは、自分で苦労して日本語を習得した経験から、外国人が日本語学習のどこに苦労するか知っている。
⇒学びやすく教えやすい

ある程度の日本語レベル以上の外国人には、日本人ボランティアが教える。

支援

外国人日本語キーパーソン
養成講座

日本語を教える力＋社会制度の基本知識

外国人日本語キーパーソン
たち

4.2 地域の課題と外国人日本語キーパーソンの役割(2)

外国人にとって

課題3

中小企業で働く外国人は日本語力不十分ゆえに派遣会社経由の単純労働が多い。収入が不安定で、また、**能力を発揮しづらい**。子どもにも影響する。
⇒教育問題と貧困の世代間連鎖へ

企業にとって

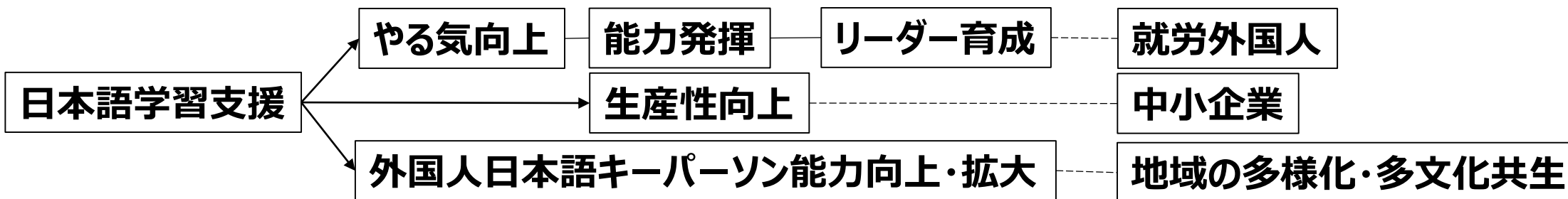
課題4

中小企業は人手不足から外国人の雇用を増やす方向。単純労働非正規就労者は賃金が安く、一見コスト面でプラス。しかし、**能力を生かしきれない**、また、設備投資が少なくて済んでしまう。
⇒生産性が上がりず競争力低下

本事業は赤い羽根共同募金の助成事業です。



中小企業が選んだ 将来リーダーになってほしい外国人1～2人に対する日本語学習支援



中小企業では、他の外国人のケアもできることで、より働きやすい職場になって、新たな外国人の雇用促進にもなる。

4.3 外国人日本語キーパーソンの養成講座 （群馬県委託事業）

- ・養成講座：毎年 1シリーズ
2015年～2020年 2時間×5回～10回
2021年～2023年 4時間×11回
- ・受講者：日本語ができる外国人
- ・講師：正田江利子氏（2019年～）
（日本語教師、日本語教育能力検定合格、
群馬県多文化共生推進士、
「入門・やさしい日本語」認定講師）

受講者数（延べ）実績：

- ・2015年～2018年
（社会知識に重点）
受講登録者 86人
修了者 33人
- ・2019年～2023年
（日本語の教え方に重点）
受講登録者 79人
修了者 39人

5. めざす事業モデル

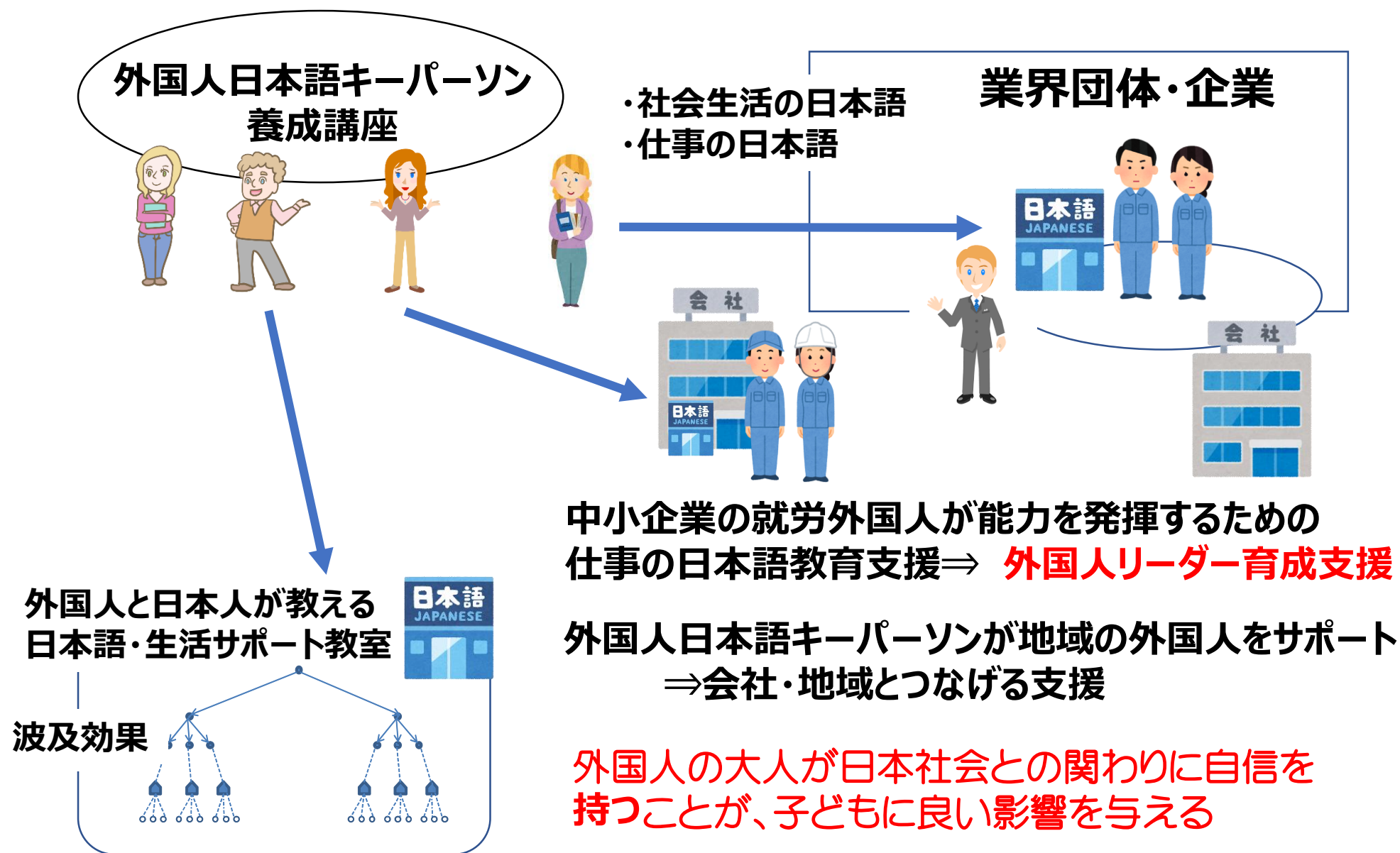
地域の課題：

在住外国人が増加する一方で 行政のリソースは有限

(方策1) 民間による支援の拡大

(方策2) 在住外国人自身による支援の構築

5.1 外国人日本語キーパーソン養成によるネットワーク



5.2 実施事例

[実施事例1] 業種：製造業

対象者：ベトナム人技術者2人 **支援者：**ベトナム人の日本語キーパーソン1人
時間：毎週土曜日 14時～16時
場所：企業の会議室

[実施事例2] 業種：人材派遣業

対象者：ペルー人就労者（永住者） **支援者：**ペルー人の日本語キーパーソン1人
時間：毎週土曜日 17時～19時
場所：企業の会議室

[実施事例3] 業種：製造業

対象者：ベトナム人技能実習生2人 **支援者：**ベトナム人の日本語キーパーソン1人
時間：毎月1回の日曜日 10時～12時
場所：公共施設の会議室

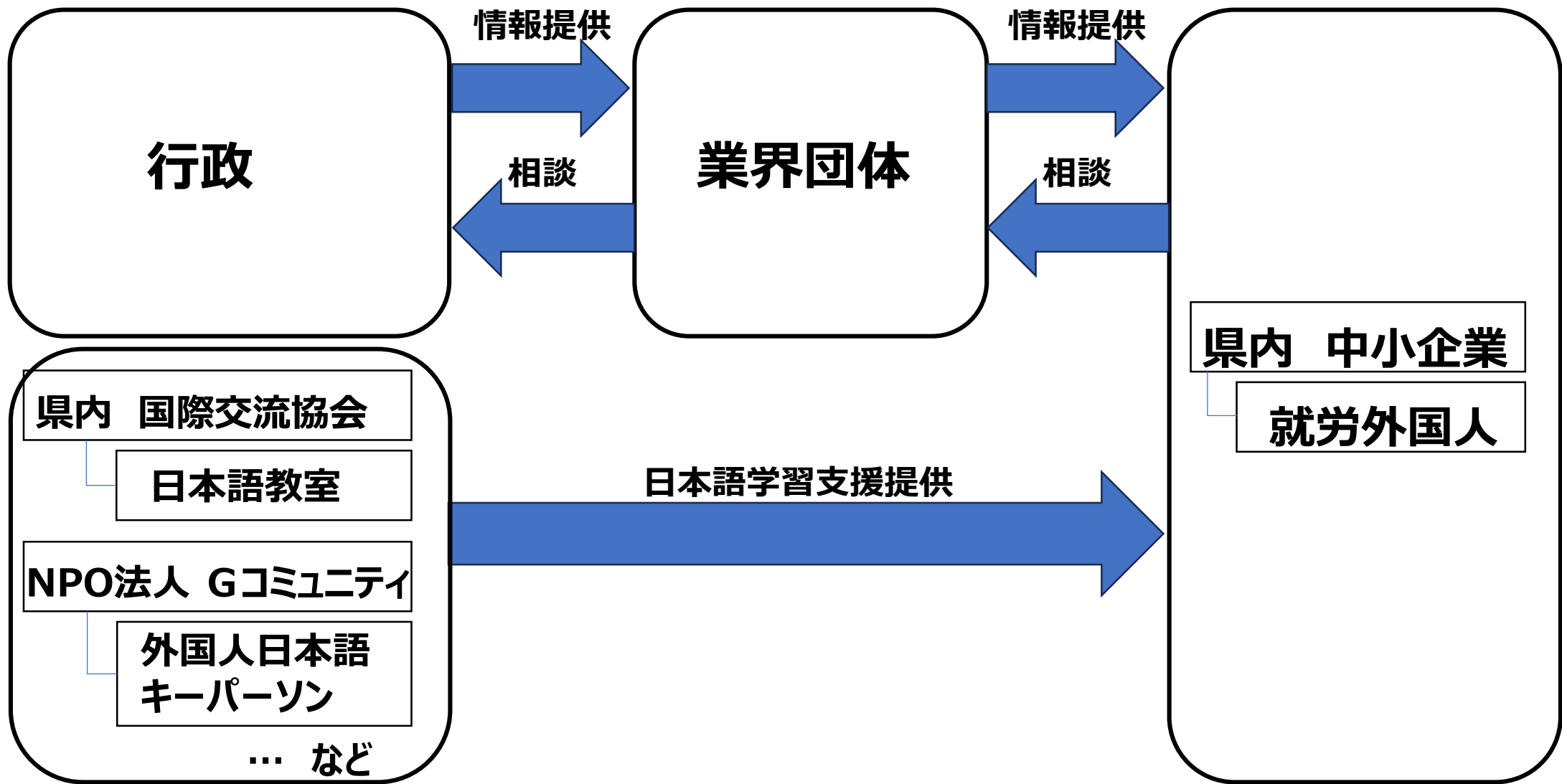
時間、場所、期間は、無理のないようにご相談の上決めます。

5.3 めざす事業モデル(1)

行政、業界団体、企業の3者による 「外国人能力発揮推進協議会」の設置

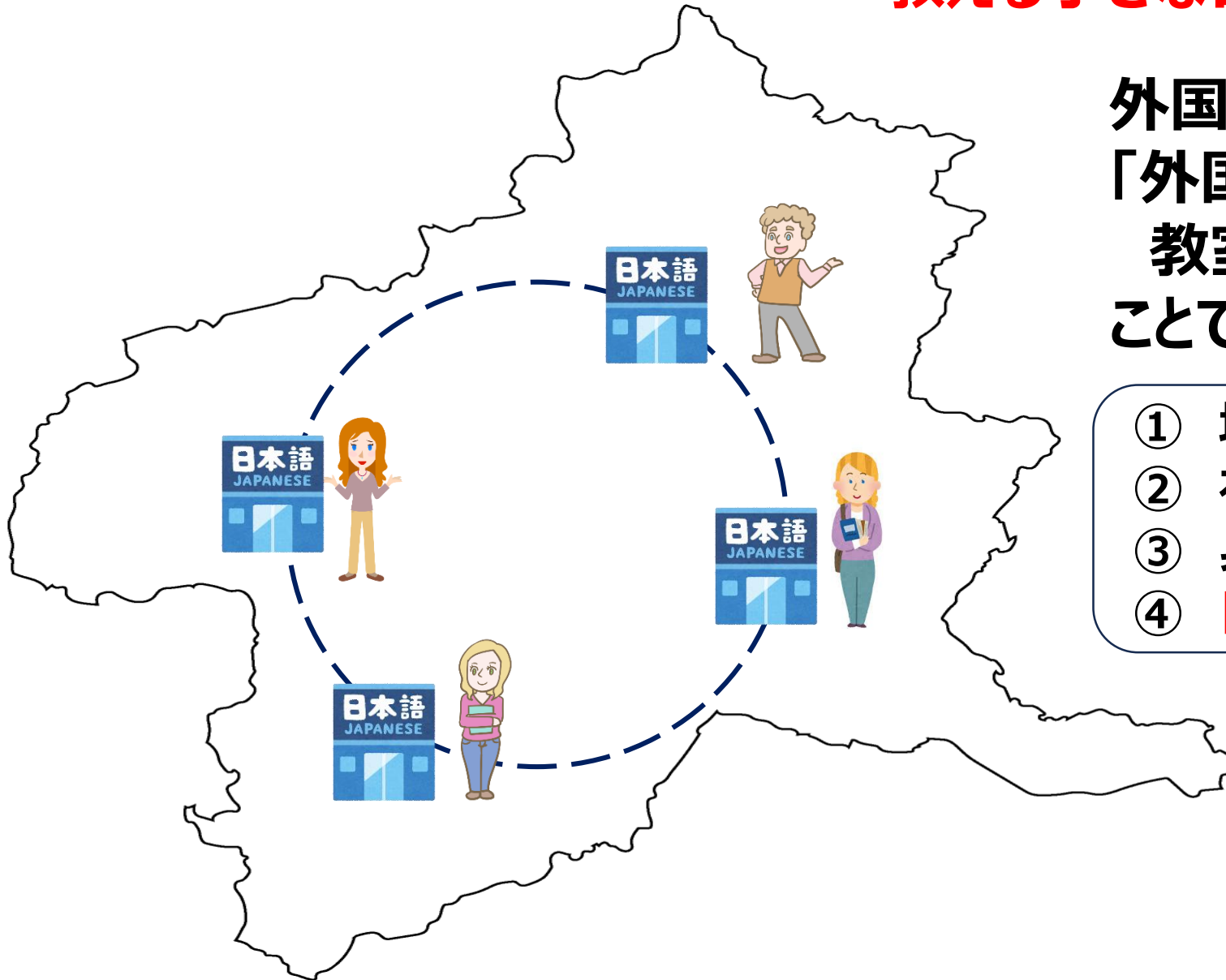
【日本語学習支援をする側】

【日本語学習支援を必要とする側】



5.2 めざす事業モデル(2)

外国人日本語キーパーソンと「外国人が教える小さな日本語教室」のネットワーク



外国人日本語キーパーソンと「外国人が教える小さな日本語教室」が、群馬県内に増えることで、下記を改善、予防：

- ① 地域の外国人の日本語力向上
- ② 社会制度の基礎知識の周知
- ③ 身近に相談できる外国人がいる
- ④ **日本人と外国人の近所のトラブル**

「外国人が教える小さな日本語教室」

・運営資金はほとんど自助

受講者料金 2時間 500円

支援者謝金 1時間 500円

5.2 めざす事業モデルの 課題と方策

**課題 1 : 外国人就労者についての中小企業経営者の認識の進化
(低賃金、単純労働 ⇒ 能力発揮による仕事レベル向上)**

方策 : モデル企業を増やすことによる実効果の周知

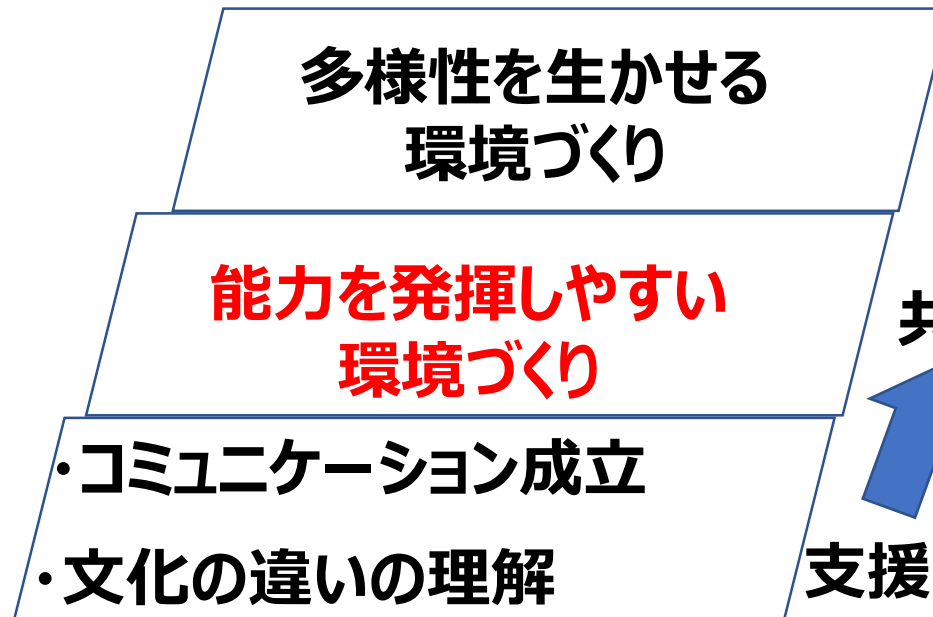
課題2 : 外国人日本語キーパーソンの国籍・人数拡大

**方策 : ① 養成講座の開催数・開催地の拡大
② 講師の養成 (日本人、外国人)**

6. 増加する在住外国人と日本語学習の進展

新たに日本に来る外国人の増加
＋
長く日本に住む外国人の増加

【多文化共生の進展】



共創
↑
共生
↑
支援

【日本語学習の進展】

